



子どもたち先生方の笑顔のために

共に歩まん

壁面に掲示してご活用ください

令和4年9月1日発行

第9号

長野県中信教育事務所

←過去の「共に歩まん」はこちら



シリーズ「ここが大切 授業づくり」～国語科編～

学年の系統性を意識しながら、育成を目指す資質・能力を明確にすることから始めましょう。そして、言語活動を通して、育成を目指す資質・能力を着実に育てていくことが大切です。

中学校2年生における「B書くこと」の領域を例に単元づくりを考えてみましょう。

ステップ1

系統性を意識して育成を目指す資質・能力を明確にしましょう。

学習指導要領解説国語編の巻末（小学校P196～，中学校P166～）にある「各学年の目標及び内容の系統表」（※以下「系統表」）が参考になります。各学年の内容を比べると、育成を目指す資質・能力がより明確にイメージできると思います。下の例では、特に下線部から各学年の系統性が見えますね。

中学校〔思考力、判断力、表現力等〕B「書くこと」(1)ウ

第1学年	第2学年	第3学年
ウ <u>根拠を明確にし</u> ながら，自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。	ウ <u>根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり，表現の効果を考</u> えて描写したりするなど，自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。	ウ <u>表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど，自分の考えが分かりやすく伝</u> わる文章になるように工夫すること。

1学年では「根拠を明確にする」だったものが，2学年では「根拠の適切さを考える」となっています。自分の考えと根拠となる事実や事柄との論理的な整合性などの観点から，根拠の適切さを考えて表現することが求められているのです。系統性を意識することで，これまでの学習の流れや，この学年で育成を目指す資質・能力がイメージしやすくなりますね。



ステップ2

適切な言語活動を位置付けましょう。

系統表にある「言語活動例」を参考に，育成を目指す資質・能力と子どもの実態に合わせて，言語活動を考えましょう。何かを表現する場合は，その目的，相手，場面等が明確になるほど，言葉による見方・考え方を働かせながら，言葉や表現を吟味する必要感が生まれます。

第2学年 B書くこと (2)言語活動例 ア

ア 多様な考えができる事柄について意見を述べるなど，自分の考えを書く活動。

「新聞への投書を書く」「校内で行われる意見文コンクールへ出す意見文を書く」「議会へ意見書を書く」など，様々な言語活動が考えられそうです。

光村図書の教科書にある「根拠の吟味」（P132～）や「根拠の適切さを考えて書こう」（P134～）という教材が活用できそうですね。



国語科では，資質・能力の系統性を大切にしているよ。子どもの発達段階に応じて，指導内容を螺旋的・反復的に繰り返しながら学習できるようにしよう。系統性が意識できると，子どもの成長にもよりワクワクできるんじゃないかな。

